

平成 29 年度 文教民生常任委員会行政視察報告書

1 期 日 平成 29 年 7 月 28 日 (金)

2 視 察 先

◇子育て環境について

・岐阜県美濃市

3 参 加 者 (7名)

委 員 長 田中 康久

副委員長 上田 謙市

委 員 清水 敏夫 兼山 悌孝 野田 勝彦

議 長 渡辺 友三

事 務 局 議会総務課係長 兼山 美由紀

4 研修結果 以下のとおりである。

岐阜県立森林文化アカデミー内 みのプレーパーク もりもりキャンプ

7月28日(16:00~17:00)

子育て環境について

・プレーパークとは

対応者：岐阜県立森林文化アカデミー 舟橋 勝 総務課長

【美濃市の概要】

○人 口 21,181人(7月末)

○面 積 11.701km²

○議員数 13人

○みのプレーパーク 平成23年より活動

説明者：岐阜県立森林文化アカデミー 萩原 ナバ 裕作 准教授

川尻 秀樹 副学長兼事務局長

説明事項

○子育て環境について

「プレーパークとは」

プレーパークとは、戦後デンマークの焼野原の瓦礫の山で遊ぶ子どもたちが、大人の用意した公園や遊具で遊ぶときよりも自由に生き生きとしていたことがきっかけで、ヨーロッパ各地に広まった冒険遊び場。日本では1970年代にスタートし、現在では全国に300カ所以上あり、岐阜県には9カ所ある。

「自分たちの責任で自由に遊ぶ」「心が折れるぐらいなら骨が折れた方がマシだ」をモットーに行っている子どもたち主体の空間で、多少の怪我をしても自分たちの「やりたい」という事にチャレンジができるようにしている。ただし、他人が嫌がることや、場にそぐわない行為、治らない怪我になりそうな行為は禁止している。プレイワーカー(プレーリーダー)が常駐しており、子どもたちの遊

びを見守り、過不足なく関わっている。

遊びは子どもにとって生きることそのものであり、遊びはおもちゃの中にあるのではなく、子どもたちの中にある。子どもたちは遊び場を通して、人との関わり、自己発見、好奇心、創造力、チャレンジなど成長するうえで欠かせない大切なものを獲得していけるような場所を提供している。

今回は、プレーパークではなく、5日間のもりもりキャンプというものだが、基本は変わっていない。

今の時代、周りに大人が多く、なんでも至れり尽せりであるため、その子が大きくなると指示待ちや自分で何もできない、まじめすぎる、ダメと言われて越えようとしないう、失敗するのが怖いという人になってきている。そんな人にならないよう子どもにこの場所を作っている。危険とか、汚いとかはすごく大事である。

●主な質疑応答

Q 今回のキャンプには、おおまかなプログラムはあるのか。

A 来る時間、帰る時間のみ。

Q 保険は掛けているか。

A 2泊3日の場合は、一般的な旅行保険を掛けている。

Q 親からの承諾書などはもらっているのか。

A 行っている。これから何かをやる時は、やる側と受け手ではなく一緒に行くという参加型で。

Q 郡上からの参加もあるのか。

A 郡上からも参加している。この間、かえるっこくらぶの親さんが相談にみえ「郡上の親さんたちは土日になるとショッピングセンターへ行ってしまう」と話された。ここへの相談をするのは、移住でみえた親さんたちで、最初は移住の方が多いが少しずつ地元の親さんの参加も増えていく。ここでつないでいく必要がある。

Q 普段のプレーパークに参加の子どもに対して、スタッフが何人つくのか。

A 150人来てても、週末のプレーパークはスタッフ5人。スタッフがプログラム提供者ではなく、送りに来ている親さんに手伝ってと声をかけている。来ている人をお客さん扱いしないで、ちゃんとスタッフ側に回して一緒にやってもらうようにしないと、その場限りで続かない。

Q 平日は何人参加するのか。

A 週末は150人以上の参加者があるが、平日は16:30まで学校があるため、本当に少なく15人〜20人。子どもが、来てみたら1人なので帰るということもある。

子どもたちは周りに物があふれているので物は必要なく、ここでは体験や道具を持たせ物をつくる楽しみを教えるというのを行っている。

Q 今までに、大きな怪我はなかったのか。

A 見えないように見ているので、大きな怪我はない。スタッフの経験値が高くないとしっかり見るのは難しい。

Q 周りの山はどこの所有か

A 奥の山はアカデミーの演習林。森とつながっていると、ここで焚火をし、灰をまた山へ戻し、木を持っていき焚火にするというのも分かる。

○視察状況

敷地内での説明及び質疑の様子



5 所 感

子ども達が、自然の中で、また、ナイフやがれきのようなもので遊んでいた。驚いたのは、市内はもちろん、市外からも多くの子ども達が集まっていた事である。遊び方も各自が工夫して、大人は見守るのが基本である。

郡上でも子ども達の遊びが都会化していて、せつかくの自然環境を活かしていないとの声をよく聞くが、郡上でこそこういったプレーパークを行えば、市内はもとより市外、県外からも多くの子ども達や親を引き付ける可能性がある。

子育て移住の促進や観光立市にもつながる施策である。市内でも子育て支援団体がプレーパークを行う動きもあり、動向を注視しながら、積極的に調査研究すべきものである。

子育て支援は親の経済的支援にとどまるだけでなく、子ども達の見線に立った視点を大切に施策を展開する必要も感じた。

6 視察経費

視察費 2,000円

一人平均 333円 (委員5名・議長)

以上、視察研修の主な結果について報告します。

平成29年10月2日

郡上市議会議長 渡辺友三様

郡上市議会文教民生常任委員会
委員長 田中康久